

講義名	平和とコミュニティ		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3 時限
配当年次	3		
必修・選択	選択		
区分・科目	コモンズ専門科目 コミュニティデザイン		

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 玉城 毅	指定なし

1. 授業概要	本講義では、さまざまな「暴力」現象を通して「平和」の条件を考える。人はつながりの中で生きる存在であるが、しばしばつながりを自ら断ってしまう。「平和」を破壊する「暴力」に着目し（ガルトウング）、暴力の歴史・実態・メカニズムを捉える。対象としては、家族などの小規模な集団における暴力（DV）から、国家レベルの暴力（戦争）までを取り上げる。講義の後半では、暴力低減の可能性を考察した先学に学ぶ。
2. 到達目標（ディプロマ・ポリシーとの関係を踏まえたもの）	（１）人間の負の側面としての暴力について認識を深める。 （２）暴力を乗り越えようとした先学の思想に学ぶ。 （３）平和と暴力の問題を自分の問題として考える。
3. 授業計画	1 オリエンテーション：平和と暴力への視点 2 学際研究としての平和学 3 霊長類の暴力：サルの子殺し 4 性と暴力：ドメスティック・ヴァイオレンス 5 殺の問題：自殺と他殺 6 共同体と暴力：スケープゴート論 7 近代国家と暴力１：殺戮の時代として20世紀 8 近代国家と暴力２：権力に飼いならされること 9 戦争論１：10年に一度戦争をした近代日本 10 戦争論２：ホロコーストとナチズム 11 暴力の記憶：オキナワ・ヒロシマと平和 12 暴力の根源：エゴイズムとニヒリズム 13 平和への構想１：ガルトウングの平和論（紛争解決に向けて） 14 平和への構想２：フランクルの平和論（苦悩からの出発） 15 まとめ：暴力からの転回
4. 事前・事後学修	（１）顕在的あるいは潜在的暴力を扱った映画をみて、暴力について認識を深める（事前学修）。 （２）暴力現象の広がりを見据えた上で、自分の関心の在処を探る（事前学修）。 （３）これらのことを踏まえて本（参考書及び講義中に紹介したもの）を読む（事後学修）。
5. テキスト	講義中にプリントを配布
6. 参考書	加藤陽子2009『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社 ガルトウング、ヨハン他2003『ガルトウングの平和学入門』法律文化社 フーコー、ミッシェル1977『監獄の誕生：監視と処罰』新潮社
7. 成績評価方法	通常レポート（40%）と期末レポート（60%）によって評価する。
8. 関連科目	文化人類学、社会学、コミュニティ論
10. 特に関連するディプロマ・ポリシーの項目	（１）・多様な価値観が共存する社会状況やその背景を理解する力。 （６）・既成の考え方にとらわれず、新たな価値をつくり出す創造力、及びその価値の実現へと邁進できるチャレンジの力。